

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	その他レジャー 施設（職員）	販売量の動き	・取扱チケットの категорияが増えたため、大幅に販売量や来客数が増えた。ただし、客単価は低くなっている。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	お客様の様子	・今月は天候、来街者など比較的安定した状態で、若者中心の衣料店に動きが目立つ。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・ようやく気温が上がってきて、月前半は春物の羽織関係が売れていた。中旬からは夏のトレンドがある程度はつきりしてきたため、客の購買意欲が増している。カットソー、Tシャツなどの単品を中心に、客が商品を探している様子が確実にうかがえる。
		一般小売店 〔酒〕（経営 者）	販売量の動き	・天候の回復もあり、4月に入ってから入出が活発になってきて、それに伴い販売量も幾分伸びてきている。
		一般小売店〔土 産〕（店員）	来客数の動き	・先々月まで、観光客が前年比で5～10%減っていたが、底入れしたのが先月から今月にかけてほぼ前年並みになり、改善傾向にある。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・来客数、販売量とも前年比は、全国平均値と比較すると遅れをとっているものの、前月との比較ではいずれも増加している。力強さには欠けるものの、1月、2月を底としてやや回復している状況となっている。内訳では、食品及び住居用品で全国平均を上回っている。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・雪の影響もあったのか、3か月前と比べると店全体の来客数が3%増加している。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・3か月前と比較して販売数量が25%伸びている。昨年の12月と比べても約6%多くなっている。
		衣料品専門店 （店長）	単価の動き	・客一人当たりの買上点数が増えており、客単価も上昇している。
		乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・雪解けが遅かった反動とも思われるが、4月は前年より契約台数が多く、良い状況であった。
		一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・依然として客単価の前年割れが続いているが、来客数が前年比107%と伸びている。
		観光型ホテル （スタッフ）	販売量の動き	・外国人客を中心に宿泊客数は3か月連続の2けた増加となった。ただし、宿泊単価は依然として前年割れと厳しい。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・ヨーロッパ方面の海外旅行が順調に伸びており、国内旅行も道外に向かう旅行は好調に申込数を増やしている。
		美容室（経営 者）	お客様の様子	・客との会話の中で旅行や買物、食事など活動的な話題が多くなってきている。
	変わらない	商店街（代表 者）	お客様の様子	・天候のせいもあるが、客の消費意欲が非常に低迷しているように感じる。バーゲンであっても反応が悪く、本当に必要なものしか求めない。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・天候がそれほど良くなっていないため、客の動きがまだ緩慢な状態である。
		百貨店（売場主 任）	単価の動き	・3月の実売期に苦戦していた春物のコートを4月上旬に値下げしたところ、ある程度販売に結びついた。また初夏物・夏物を早めに投入しているが、カットソーやセーターなど、低単価の商品が販売の主力となっている。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・中旬過ぎから気温が平年並みまで上がる日が多く、売上を上乘せしようと強い販促を仕掛けると客数はアップするが、客の買い方は慎重なままである。特にまとめ買い等があまりみられず、依然として前年を割り込んでいる。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・例年に比べて気温が低いことも影響しているが、春物、初夏物の売上がなかなか回復してこない。割引を実施しても客が飛びつかない状況が続いている。
		家電量販店（店 員）	来客数の動き	・入学、進学客が少なく感じた。相変わらず複数の店を回る客が多く、特價商品の人気がある。
家電量販店（地 区統括部長）		販売量の動き	・デジタル商品が好調に推移しているものの、昨年末からの単価ダウンに歯止めがかからず、トータル的には変わらない。	

	住関連専門店 (経営者)	来客数の動き	・とうとう商店街の店舗で閉店するところが2~3店出てきた。我慢ができずに限界を迎えている店舗が多いようだ。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・大型店撤退のニュースなど、地域の衰退が消費者の利用意識を低下させている。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・観光客の落ち込みが顕著である。この時期は、例年であれば観光バスや観光客が良く目に付くが、最近はあまりみられない。
	高級レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・ゴールデンウィークを控えているせいか、ランチ客が前年の7割となった。特にビジネスマンと時間に余裕のある女性客が減少したようだ。ディナーは企画商品が当たり、客数、売上、単価のいずれもが増加した。全体では前年を少し下回っている。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・4月は企業の異動の時期だが、歓送迎会は一次会で終わることが多く、二次会があっても、団体料金の安いスナックなどに流れていたようだ。
	観光型ホテル (経営者)	販売量の動き	・道外客、地元客とも動きが良くない。1人当たりの消費額も伸びる気配がない。台湾からの旅行客は依然として好調である。名古屋圏からの客は増加傾向にある上、付帯収入部門での売上増加が顕著である。地元客を含めた道内客の動きの悪さが痛手である。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・ゴールデンウィークの宿泊客が伸びず、長期間の休みの割には動きが鈍いように感じる。
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・例年のゴールデンウィークの動きに比べて来店が少なく、旅行申込も少ない上に、1泊程度の短い日程が増えている。
	設計事務所(職員)	それ以外	・新年度を迎え、公共工事が発注される時期が近づいてきたが、例年より数や量が少ない。民間工事も医療施設や分譲マンションに限定されて、全般的には少ない。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・季節的にモデルハウスの来場者は増えてきているが、成約等は相変わらず低調な感じである。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・購買量の低下は所得の減少が最大の理由と受け止めている。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・低単価志向が強く、また消耗品の動きも鈍く、落ち込みが大きい。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・2月、3月と季節物の動きが鈍かったことから、今月は気温の上昇に伴い動きが活発になることを期待したが、思いのほか伸びきれずに推移した。母数の大きい衣料品・服飾雑貨の購買客数の減少に歯止めがかからない状況にある上、比較的、変動の少ない食料品でも、過去に例がない程の大幅な落ち込みを記録した。少子化の進行に伴い、入学・進学のリターン需要が減少していることも影響している。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・食品における物産催事は客数、売上とも非常に良いが、春物の婦人服、紳士服の動きが厳しい状況である。
	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・幹線道路沿いの店舗で男性の来客数が前年に比べて減少している。雪解けの遅れが工事や農作業の遅れにつながっている可能性がある。
	コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・客の買上点数は昨年と比較するとほぼ変わっていない。ただし単価が低下しており、客はより安いものを求めているとみられる。
	コンビニ(エリア担当)	競争相手の様子	・順調に売上が伸びていると言われているスーパーも販促の機会が多くなり、昨年は週2.0回であったものが今年は週3.6回まで増加している。通常の値段では売れず、単価自体も下がっており、景気は減退している。
	衣料品専門店 (店長)	単価の動き	・色々売り出しや展示会を行うが、今月の展示会では高額品が全く売れず、安い物でも数が減っている状態である。
	乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・販売活動を強化しているが、景気が悪く商談にならない。
	その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	お客様の様子	・原油価格の急騰により石油製品価格が暴騰している。

		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・来客数の動きはここ数ヶ月、前年に比べて停滞気味に推移している。愛知万博の影響、あるいは航空機の輸送能力の減少等が理由として考えられるが、何が本当の理由かはもう少し分析する必要がある。
		観光名所(役員)	来客数の動き	・函館への観光客入込者数は減少傾向にあり、施設内のレストラン利用者も減少している。
	悪くなっている	スナック(経営者)	来客数の動き	・4月は歓送迎会がある時期だが、いまだに国家公務員の倫理規程が厳しいため参加してくれる人が少ない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・4月になり、雪解けとともにタクシーの利用客が激減している。また規制緩和により、札幌のタクシー台数は3年間で14%増えているため、利用客の減少と合わせてますます売上が減少している。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業 (団体役員)	受注量や販売量の動き	・総体的な受注量に変わりはないが、愛知万博の影響で中部地域への販売量が好調である。
		輸送業(支店長)	取引先の様子	・道内の産業構造がリサイクルを中心に動き出している。特に、石炭価格の高騰の影響によると思われる代替燃料への転換及びリサイクル法関連で新たなビジネスチャンスが生まれてきている。
	変わらない	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・昨年と比較して、最近数か月は請負物件の受注が良い。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・紙パルプのメーカー、農産物の取引ともに大きな変化はみられない。内航船の運賃高騰に伴い輸送の引き合いがうまくいっていない。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・今月は年度始めであったが、取引量、内容とも大きな変化はなかった。
		金融業(企画担当)	それ以外	・設備資金は低調である。道内全体としては大手製造業の大型投資が下支えしているが、道内地場企業の投資意欲は弱い。この冬は大雪と寒さが長引き、大型小売店や観光地の客足も鈍っている。建設業は公共投資の削減で厳しく、比較的堅調なのは、札幌中心部の分譲マンション程度である。分譲マンションは退職者などの購入意欲が強い。
		司法書士	取引先の様子	・昨年の秋以降、住宅関連の建物着工は前年から30%強落ち込んでおり、現在においても引き続き停滞傾向にある。
		その他サービス業[建設機械リース](営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・建設受注活動において少ない案件の中、まだまだ安値受注が目立つ。
	やや悪くなっている	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・この時期は本来であれば、比較的销售量が多い時期であるが、今年は例年及び3か月前との比較でいえば低調な数字となっている。
その他サービス業[システムハウス](経営者)		競争相手の様子	・今まで取引関係のない同業他社から仕事がないかという問い合わせが増えている。	
その他サービス業[建設機械リース](支店長)		取引先の様子	・特に運送業者はガソリンの高騰による打撃を受けている様子である。運送単価は決して高くなく、非常に厳しい状態である。	
その他企業[コンベンション担当](従業員)		受注量や販売量の動き	・中国、韓国等の対日感情の悪化により外国人旅行客が減少している上、本州の旅客が愛知万博を選択する傾向が生じている。	
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・特に苫小牧や千歳の大型店出店に伴い、求人数が増えている。
		求人情報誌制作会社(編集者)	求人数の動き	・ここ3か月間、求人広告及び求人数が安定しており、ごく若干だが伸びがみられる。

	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・スナックの求人を除くと求人件数は全般的に好調である。前年と比較すると15%程度の件数の伸びを示している。減少傾向が続いていた衣料品販売や理美容の求人件数も上向きに転じた。都市部のマンション建設ラッシュによる技術者、技能者の人材不足感も出てきている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数を前年と比較してみると数か月連続してある程度の増加を示している。また徐々に求人活動を再開している企業が増加してきている。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・通年採用や秋採用、追加採用で求人票が増加している。また新年度に入り、求人票を持参して大学へ来る企業の人事担当者が増えている。
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・ゴールデンウィーク前の状況もあるかと思うが、大型コールセンターなどの雇用もほぼ無くなり、余剰人員を持っている現状で、企業も業務の受注状況が芳しくない模様である。建築関連も動きはあるものの、継続的な受注ではなく単発的なものが多い。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人件数は前年比でマイナス0.1%と大きな変化はない。業種別にみると、建設業及びサービス業が増加、製造業及び運輸業が減少となっている。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・対前年比でみると、新規求人が3か月連続で増加しているが、派遣・請負求人が増加しており、また新規求人のうち36%がパート求人であり、雇用環境が良くなっているとは思われない。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・弊社からの販売、営業業務への派遣は増加しているが、これは企業業績が悪化しているため、即戦力の人材を投入し、回復を図っていることにほかならない。更に投入期間も短期間であり、利益が出ていないため、経費を節約せざるを得ないほど、各社の景気は悪い状態である。
悪くなっている	-	-	-